

# 安倍政権を倒そう！

2014年の3月11日福島行動には、1100名が集まって声を上げた

## 原発再稼働阻止！

# 3・11反原発福島行動へ

まもなく福島原発事故から4年を迎えます。政府・「原子力ムラ」は何一つ反省せず、福島への「棄民」政策を続けています。安倍政権は原発再稼働を進め、常磐道の前倒し開通や中間貯蔵施設の建設を強行して「もう全部終わった」かのように演出しようとしています。

他方、安倍政権は「国民の命と安全を守る」と言って、「イスラム国」の凶行すら利用して戦争体制を構築しようとしています。危機を煽り、増税や社会保障の切捨て、労働法制の改悪を進めるこの政権が、私たちの命や生活を守ろうとしているの

か。福島の現実をただ抑え込むだけの政治がどんな未来をつくるというのか。沖縄県民の思いと歴史を踏みにじて新基地建設を強行しておいて何を言っているのか。「国民」とは、結局誰のことなのか。

安倍政権が守りたいのは、わずか「1%」の支配者たちの今までどおりの生活のことにすぎません。労働者・学生・市民のみなさん、今こそ立ち上がろう！ この国の大きなウソが明らかになった3月11日、今なお続く福島の屈辱的な現実に寄り添い、共に怒りの声を上げよう！

**再稼働、戦争、首切り もうたくさんだ  
怒りを力にたちあがろう つながろう**

## 3.11反原発福島行動'15

〈日時〉 3月11日(水)13時～ ※12時からイベント

〈場所〉 郡山市民文化センター・大ホール(集会後、デモ行進)

〈呼びかけ〉 3・11反原発福島行動実行委員会

〈メール〉 3.11fukushimaaction@gmail.com



**全学連**

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 03-3651-4861 mail\_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp

# 福島で闘う医師

## 布施幸彦さんの訴え



「ふくしま共同診療所」院長  
布施幸彦さん

### ◇「安全・安心キャンペーン」と対決していく◇

診療所で定期的に検査を受けている人は、被曝への危機意識が強い。県内産は食べない人、定期的に保養に行っている人もいます。「安全・安心キャンペーン」の中で4年間も続けているのはすごいことです。だけど友達やクラスのお母さんたちとは、そういう話ができない。タブーとされている。診療所は「避難・保養・医療」という原則を掲げ、保養活動のチラシを持って帰ってもらったりしています。

### ◇診療所への国家の弾圧◇

診療所では2年間、浪江町民が住む福島市内の仮設住宅を訪問して健康相談を行ってきました。今でも仮設住宅は県内に1万数千軒あります。昨年6月ころからは事前に1軒ずつ戸別訪問して、直接声をかけてチラシを渡すようにしました。直接会って話をするので、孤独死を防ぐ力にもなっていければと思っています。

2月に入って次の予定を決めるために連絡したところ、町の担当者に「とりやめにしたい」と言われました。きっかけは、1月17日の地元紙『福島民友』の「『中核派拠点』と報告書/公安調査庁 福島医療機関」という記事です。浪江町役場に行き、担当者に「なぜだめなんですか」と聞いたら、「2年間も無料健康相談をやってもらってきて感謝しています。だけどこういう記事が出た以上、そのまま受け入れることはできません」という対応でした。

でも私たちはやめるつもりはありません。まず住民と会ってちゃんとお話ししようと思っています。

公安調査庁が診療所のことを取り上げたのは、この診療所が仮設住宅の住民と結びつくことを恐れたからでしょう。強制避難させられた仮設の住民は非常に不満が強い。特にお年よりはこのまま仮設で人生を終わらざるをえないことに深い憤りを持っています。東電や国に怒りを持っている人たちは、警察にとって「治安対象」ですから、その人たちと診療所を結びつかせたくないのでしょう。診療所を中心とした福島の活動をつぶすという強い意志です。



### 「どんな状況でも、あなたたちとともに」

福島県浪江町「ふくしま共同診療所」院長 布施幸彦さん。浪江町民が住む福島市内の仮設住宅を訪問して健康相談を行ってきました。今でも仮設住宅は県内に1万数千軒あります。昨年6月ころからは事前に1軒ずつ戸別訪問して、直接声をかけてチラシを渡すようにしました。直接会って話をするので、孤独死を防ぐ力にもなっていければと思っています。

布施幸彦 館林厚生病院副院長

### ～ふくしま共同診療所とは？～

福島原発事故以降、被ばくの現実を無視・隠蔽する政府の方針のもとで無責任な医療体制が敷かれてきました。それに対し、「福島の子どもの命と健康を守ろう」という呼びかけのもと「避難・保養を勧めつつ、福島を離れられない住民の命と心のよりどころとなる」ことをめざし、全国・全世界から基金を募って2012年12月に開院したのが「ふくしま共同診療所」です。



現在、布施幸彦先生を院長とし、甲状腺エコー検査や仮設住宅での健康相談会などを行っています。

### ◇怒りがあふれだす時まで、声を上げ続けていく◇

2月の県の発表で、小児甲状腺がんとその疑いが計117人になった。2巡目で新たに発見された8人は1巡目のときは5人がA1、3人がA2でした。この2年余りに甲状腺がんを発症したのです。

しかし簡単に認めるわけではない。“原発事故で甲状腺がんが多発した”となると、チェルノブイリと同じく空間線量が年間1ミリシーベルト以上のところは避難しなければならなくなる。つまり福島県は全県避難です。

さらに大きいのは原発再稼働ができなくなるということ。再稼働すれば必ず福島と同じことが起きる。原発事故ゆえと認めることは、日本から原発が消えることを意味します。こんなことを認めたら政府はもちません。

この地で生きる人が周りの圧迫をはねのけて声を上げるのは大変なことです。だけどみんながおかしいと思っているし、それが堰を切ったようにあふれ出す時が必ず来ます。彼らの根底的な怒りを表現できる場をいっしょにつくりたい。だからこの診療所が声を上げ続けていくことが大切だと考えています。

### ◇3・11福島行動に集まってください◇

全原発廃炉の闘いの原点は福島です。原爆禁止の闘いは広島・長崎を二度と起こさせないこと。同じように再稼働阻止とは、原発事故を二度と起こさせない闘いです。再稼働が狙われる原発の近隣の人も3・11集会に参加して、福島の現実を持ち帰って再稼働に反対してほしいと思います。

3・11には全国の人にいっぱい集まってほしい。福島で生きる人たちに、みんなで「絶対にあなたがたと一緒に歩いていきます」と発信する。そういう人が何万人、何十万人と集まれば、福島の人たちが「自分も声を上げよう」という力になる。がんばりましょう。